

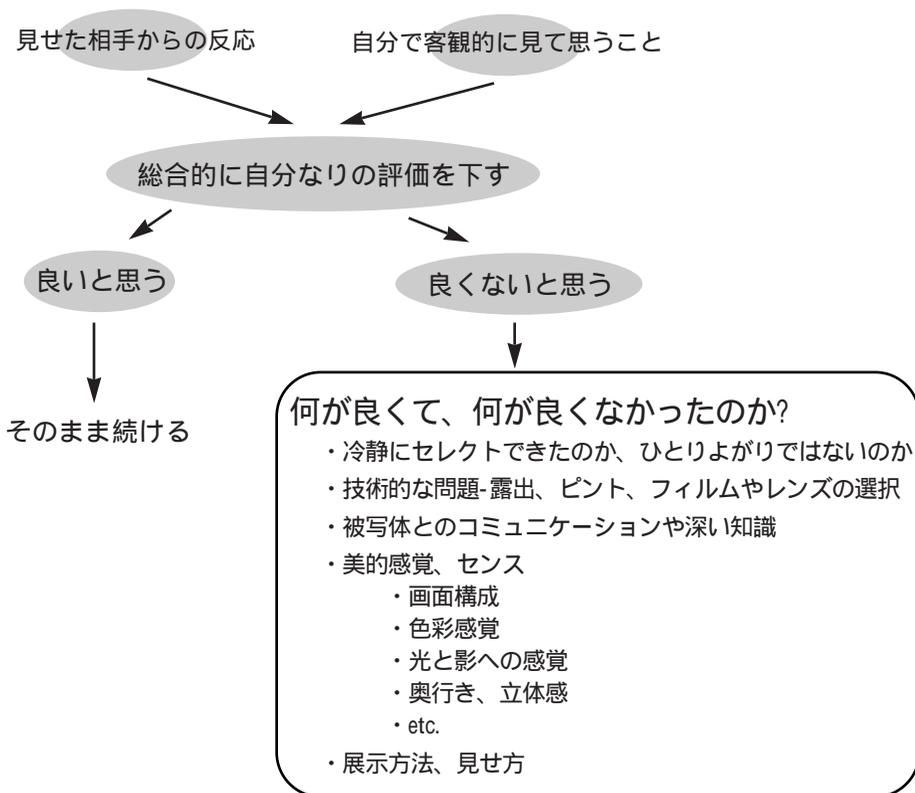
いわゆる写真が「うまい」、「へた」とは何か?

自分で撮って、いろいろ考えて選んで人に見せたり、写真展に参加したりすると、いろんな反応が返ってきます。それによって自分が感じていたことが相手にも伝わったのか伝わらなかったのかがわかりますし、自分では思いもしなかったところが評価されたりもします。また、そうしていく作業のなかで、自分でも最初に仕上がりを見た時の興奮はだんだん覚めて、自分でもまるで人の作品をみるように客観的に冷静に見ることもできるようになると思います。

そんなときに自分で、良かった(他人にも自分と同じことを感じてもらえた)と思えばいわゆる「うまい」という範疇に入るのでしょうし、自分で自分の作品を冷静に見て自分でも満足がいかなかったり、他人からも良い評価が得られなかったりすると「へた」ということになるのでしょう(自分でそう感じるのでしょう)

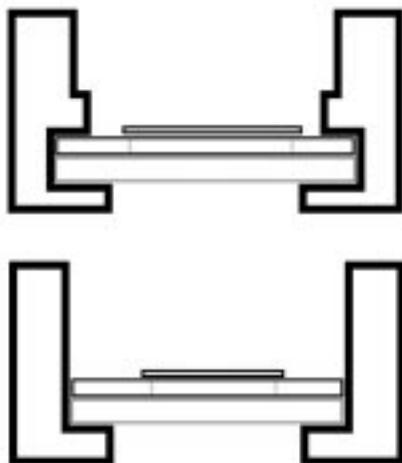
この「うまい」、「へた」という言い方は語弊のある言い方で、他にも「良い」、「良くない」とか、「わかる」、「わからない」といった言い方がありますが、最終的には、見せた相手から得られた評価も含めて「自分で納得できるかどうか」ではないでしょうか。

もし、今撮っている作品が自分でも納得のいくものであれば、それはそのまま続けられればいいのですが、そうでない場合、自分でも納得のいかない場合はどうすればいいのかを考えてみましょう。



額装について

額縁のタイプ



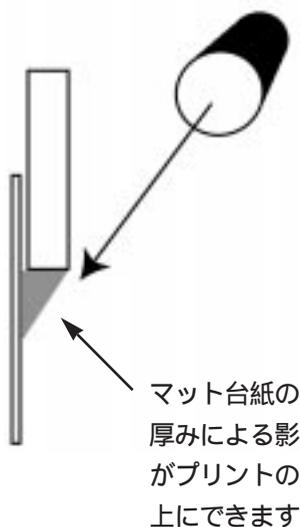
左の図は額縁の断面図です。

上の額は、額縁の一边をはずして横から挿入するタイプ。

下の図は、額の裏蓋をはずして裏からそのまま入れるタイプです。

額に作品をおさめる時は、通常マット台紙の裏からプリントを貼りつけます。そうすることで、マット台紙の厚みの分だけガラスとプリント表面との間に空間ができ、湿気等による貼り付きを防ぎます。

マット台紙が45度に切られている理由



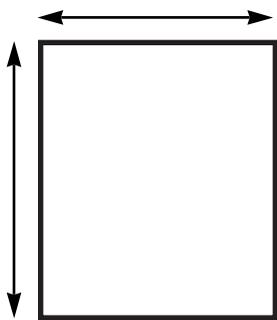
マット台紙の厚みによる影がプリントの上にあります



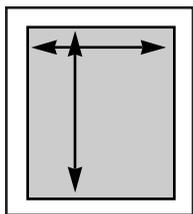
45度程度に切られていれば、上からの照明による影ができません。しかし、45度にカットするのは専用のカッターと、かなりの練習が必要です。最初は業者に頼んだ方がよいでしょう。

マット台紙の切り方

窓を切り抜く大きさの計算方法



額にあった大きさの
マット台紙



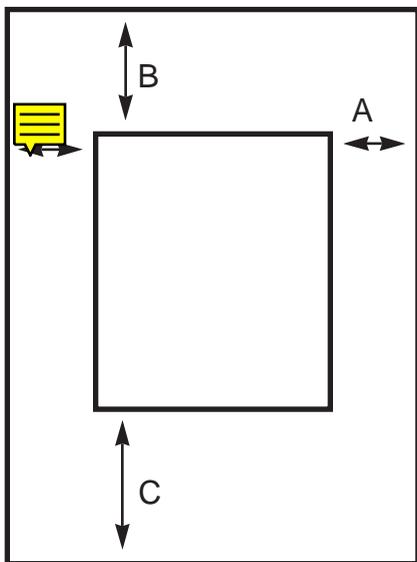
プリント

まず最初に、マット台紙の幅と高さをミリ単位で正確に計ります。

次にプリントの画面の幅と高さを計ります。プリントで計るのは、ペーパーの余白や白縁を含まない画面だけの大きさです。

通常、マット台紙にあける窓の大きさを、プリントの画面サイズよりわずかに小さくします。(プリントの余白を出さないように)

ですから、窓をあける大きさは幅、高さとも10mmずつ小さくしてみましょう。



計算方法

$$\cdot A = (\text{マット台紙幅} - \text{窓幅}) \div 2$$

Aは左右同じです。

BとCは同じでも良いのですが、下(C)をわずかに広くした方が安定して見えるので、BとCの比率を45:55としてみます。

$$B = (\text{マット高さ} - \text{窓高さ}) \times 0.45$$

$$C = (\text{マット高さ} - \text{窓高さ}) \times 0.55$$

$$\text{又は、} C = \text{マット高さ} - B - \text{窓高さ}$$

この計算で出た数値で、マット台紙の裏から線をひき、カッターで窓を切り抜きます。